

# 怒らない不信



東郷 潤

怒るって、時と場合によって難しいですよ。



そんな怒りやすさって、なんで決まるのでしょうか？

一般的には「怒りやすさって、怒ったときの安全性で決まる」って言えるかも。  
たとえば、どっちが強いかな。



強い人が怒るのは簡単そうです。



では弱い人は？ もちろん危険を冒す覚悟があるか、理性が吹き飛ばせば、弱くても怒れないことはありません。



つまり、弱い人が強い人に怒るのは簡単ではありません。

それでは、弱い人は死の覚悟でもしなければ、常に怒りを我慢し続けなければいけないのでしょうか？



もちろん、違いますよね。安全性は、強さ<sup>1</sup>ではなく信頼で確保することも出来ます。

---

<sup>1</sup>物理的な力、権力、法的な強制力、金力など。なおこれらの絵は、絵本「沈黙の声」から。

たとえば、夫に浮気されて、妻が怒る場合。



そこには「怒っても安全」という最低限の信頼があるものです。強い夫に殴られるかと思えば、そうそう怒れません。

実は、見知らぬ人同士でも信頼関係って存在するんですよ。たとえば電車の中で傘に足を刺された時；







この場合二人には、●怒ったら怒りを受け止めてもらえる ●謝罪すれば許してもらえる、という暗黙の信頼関係が存在しているでしょう。この信頼関係の程度は国や社会で変わります。

もし相手を全く信頼出来なければ、どんな社会でも怒ることは難しくなり  
ますね。





怒っても安全という、見えない信頼の存在で怒りやすさが決まってきます。

これを逆に利用することも出来るんですよ。たとえば浮気した夫に対して、





**怒らないことで、  
強い不信が伝わりますね！**

## あとがき

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、出来るだけ多くの方に、読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることが出来ます。

[www.j15.org](http://www.j15.org)

©Jun Togo 2019